

## 二〇〇八年度韓国仏教学結集大会に参加して

長 澤 市 郎

韓国仏教学結集大会は二年ごとに開催されてきた。二〇〇八年の開催会場はソウル市東国大学校で、五月十七、十八日の二日間に亘って催された。

二〇〇八年度結集大会に出席したメンバー十五名は、立正大学の高橋堯英教授を団長に、三友健容教授、仲澤浩祐教授、松村壽巖教授、安中尚史教授、佐野靖夫特任准教授と博士後期課程在籍中の野田悟史氏、金希泰氏他数名と、身延山大学の寺尾英智仏教学部教授、福士慈穂教授、長澤市郎と、別便での望月海慧教授、三輪是法准教授が加わり大所帯である。

参加者は五月十六日朝七時二十分に羽田空港国際線ターミナルに集合した。

二〇〇八年度韓国仏教学結集大会に参加して（長澤）

搭乗機はソウル金浦空港行き、羽田空港からの出発なので、成田に行くのに比べ時間も短縮でき便利である。

出発は九時二十分の予定が、離陸する機の順番待ちで九時三十五分に離陸した。機内はほぼ満席、飛行時間一時間五十五分を予定すると機長のアナウンスがあり、途中は穏やかな飛行で日本海から韓国上空を飛び、金浦空港着陸は十一時三十五分。入国手続きに意外に時間がかかり、ようやく入国ロビーへ出ると中年女性のガイドさんが迎えに来ていて、マイクロバスに案内された。気温は東京に比べ少し寒い感じである。

皆の旅行ケースなど荷物を積み込み、すぐにソウル市内に向け出発した。漢河の左岸に沿って上流に向かって

走りだし、直ぐに橋を渡り右岸を走り街に向かう。途中高層アパート群が目につく。ガイドさんの達者な日本語の説明により、ホテルに向かうものと思っていれば、市内見学をすると告げられた。

### 市内見学から

まず初めに景福宮に向かった。正面の世宗大路から宮殿に向かうのかと思っていれば、社稷路を通り西側から宮殿正面に着いたので、突然左側に派手な大きい囲いが目に入ってきた。

説明によれば、宮殿正面に位置する本来の光化門は、日本時代に元の場所から建春門の北に移築され、その跡にコンクリートで作った現在の光化門があるが、二〇〇六年から始まった政府の景福宮復元計画により撤去して、移築されていた本来の門を、元の場所に戻す作業が始まっているようで、作業はカラフルな囲いで覆われて、内部を見ることができない。

宮殿横の入り口から入り駐車場にバスを止め、徒歩で見学を始めたが、日照りが強くなってきて暑い。数年前からみると復元整備が進んでいるのか、建物も増えた感じがするが、工事のためか砂埃が舞っている。

復元工事完成予定は二〇二五年とのことである。宮殿は十三世紀に創建された後、豊臣秀吉による壬申の乱（文禄、慶長の役）により全焼した。その後、一八六八年（高宗五年）創建当時の規模に復元されたが、また日本によりその殆どが破壊されるという悲劇に見舞われ、今その復元が始まっているわけである。

丁度興禮門前の広場で衛兵の交代セレモニーが始まったところであったが、兵士の衣服を着けた若者達は暑さのためか、覇気のない行進ぶりである。（写真1）交代の儀式が終わり興禮門から入り、復元された建造物を順に見学していった。勤政門、勤政殿、思政殿、交泰殿、慶会楼まで来たが、暑さも厳しくなり、皆も疲れが重なり、見学を継続するよりも空腹を訴えた人が多く、ガイ



写真1 衛兵の交代式

ドさんが国立民族博物館内にある食堂に案内してくれた。たしかバス駐車場近くにも簡単な食堂があったような記憶があるが、ガイドさんの言うことの方が正確であろう。

民族博物館は以前より内部が明るくなった感じで、来館者に向けたスーベニール品は増えたが、図書類を扱っていた場所が喫茶に変わっていて、そこで遅い昼食をとることができた。図書類は場所を入口右側に移して営業しているが、以前より量も少なく、興味ある本を置いていないのが残念である。

展示は三つに分かれ、歴史、文化、生活の展示がされている。韓国人の一生と題した部屋には、葬祭に関した道具が展示されているが、厳粛な中にも華やかな気分が伝わってくる。

屋外には村の繁栄と豊作を祈願する石塔、チャンスンなどが展示されている。

見学を終えバスで南大門へ向かう途中、徳寿宮の前でも衛兵の交代式が見えた。バスの窓から見た印象ではこ

こちらの方が元気がよい。放火で焼失した南大門はロータリーの中央に建っているが、修理が始まっていて、こちらも周囲をパネルで囲われていて、内部は見るべきでない。焼失前の姿を思い浮かべ門を後にした。

南山を抜けてホテルに向かう。ホテルは東国大学の前に位置しているアンバサダーホテル。部屋は一部屋二人使用で寺尾教授と一緒に。ゆったりとした奇麗な部屋。窓から南山が一望でき、西日の中に展望台に昇るケールカーの動きも見える。その右手にソウル市街中心部が見える。

初日の夕食は外食である。韓国料理が用意されていて一同バスで出かけた。李泰院の近くのきさくな店であった。夕方になり外は冷えてきたが、店内は程よい暖房で、冷たいビールと熱い鍋が食欲をそそる。家庭料理だそうで、大きな鍋が数カ所に置かれ、海鮮の具が一杯に盛りされている。食べきれるのかと思ったが、全ての鍋が空になってしまった。辛さも控えめで、さっぱりとして味も

良かった。（写真2）

#### 大会始まる

本日、十七日より大会が始まる。朝食後、小雨のなかを東国大学校に向かった。（写真3）大学はホテルのすぐ目の前にあるが、南山の東麓に立地している総合大学で、建物も多くが斜面に建っている。地図では分かりにくいですが、所要所に道案内の学生が立って案内をしているし、路面に案内が貼ってあり、辿ってゆけば分かるので有難い。

今回の会場はキャンパスの東外れにある文化棟である。玄関には祝いの花束が並び華やかである。（写真4）入ると右側に受付が並び、登録が始まっている。手続きをするのに、受付の人達が不慣れで、時間がかかり混乱もおきた。後で分かったが、今回の責任者李会長が民族服姿で受付の傍で監督しておられた。参加費二万ウォンとレセプション参加費三万ウォンを払うと、分厚い論文集

二〇〇八年度韓国仏教学集結大会に参加して（長澤）



写真2 初日の夕食、韓国の家庭料理である



写真3 東国大学校正門 寺尾教授撮影



写真4 大会会場玄関 寺尾教授撮影

を渡してくれる。これが意外と重い。土曜日であるが、授業が行われているのか学生とすれ違う。

#### 会場

会場は文化棟の三、四階の教室である。自分は登録している Section 8「仏教芸術と文化」の会場に向かった。K408教室は東に窓が開き横長の明かるい部屋である。正面の壁面にホワイトボードが設置され、向かって左に演壇が置かれ、PCとコントロールボードが備えられていて、映像、音声をコントロールできる。右側には天井からスクリーンが下し、ビデオプロジェクターで映像を映すことができる。

丁度、神戸国際大学の松村淳子教授が発表準備のためパソコンを繋いでテスト中で、自分の発表は十三時三十分からと掲示されているので、昼休みにテストをさせて貰うことにした。

昼食の休憩時間中に記念撮影があるからと言われ、急

な階段をいくつも上がって撮影場所に到着した。急な石の階段に皆が腰掛けて記念撮影するのであるが、主催者が撮影するのではなく、希望者が勝手にシャッターを押すようである。気温が上がって日差しも強く暑い。

昼食の食堂が撮影場所から急な階段を上がった場所にある、おまけに参加者が多いため最上階の食堂まで螺旋階段を上がらなければならない。食事はビビンバと甘いジュース、麦芽と思っていたら、米で造る韓国の伝統飲料だそうである。建物下のグラウンドでは大勢の人達が集まり、お祭りか運動会？が行われている。模擬店も出て賑やかである。昼食時間らしく、食べる人、踊るグループあり、歌ったり、太鼓の音が景気よい。

### 画像が出ない

昼食から戻り持参の Mac をつなぎ Power point のテストをするが、プロジェクトから画が出ない。補助に配置されている学生に調べてもらったが分からないと言

い、コンピューターに詳しい学生を連れてきてくれたが解決できない。予備に持ってきた CD データを備え付けの PC に入れてようやく画が出せた。やれやれであるが、なんのためにパソコンを持ってきたのか残念である。

自分の発表は午後三時半に変更されたので安心していたら、突然お前の番だと言われた。自分の発表は「塑像仏像の修理について」である。仏像の制作技法の中に塑像がある。日本では忘れられた技法であるが、仏教伝播の中、中国西域で多く造られた技法が日本に伝わったのである。奈良時代に多く制作されたが、廃れてしまい、制作技法も日本では詳らかではない。(写真5)

筆者が行なった鎌倉時代の塑像仁王像の修理例と、台湾省台南市で行なった媽祖神像の修理報告である。媽祖像は中国福建省から来た工人が制作したことが、像内部から出現した銘板によって明らかになったので、近世中国の塑像技法が明らかになったことも紹介しようと思った。言葉より画像を主に説明したかったので、天井の

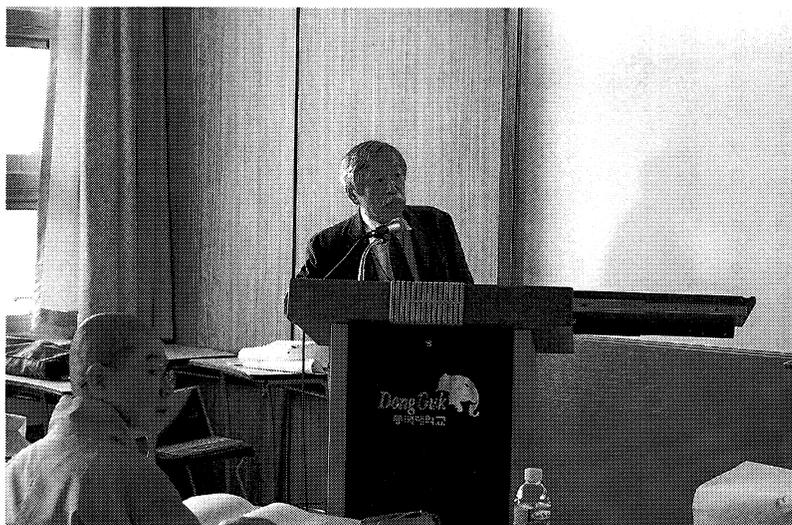


写真5 長澤発表 寺尾教授撮影

ライトを消して貰うと、メモをとっている人からはライトを点けて欲しいとの声も出て、結局明るい場所での話となった。十五分経過すると木魚一つ、二十五分で木魚二つが時間経過の合図。時間的には収まったが、質問が多く意外であった。皆さんがアブストラクトを良く読んでいて、媽祖についての関心もさることながら、資金の問題、韓国の文化財に対する助言を求められたり、時間オーバーとなった。

今回の発表の中で、保存修理関係は自分の一本のみで寂しい。

東北福祉大学の斉藤仙邦先生の発表 Buddha's care activity and the meaning は興味深いものであったが、最期を迎える人自身が勉強をしないとビハラーは成り立たないとは厳しい。死ぬのも難しいことである。

他の部屋でも同時に発表が行われているが、聴くことができず残念である。因に、他の会場での発表はチベットの中央アジア仏教部門で、望月海慧身延山大学仏教学

部教授「Commentaries on Bodhipathapradipa by Rolpai rdo rje」三友健容立正大学教授「彰所知論」の研究（序説）、中国仏教部門では、野田悟史立正大学大学院研究生「神不滅論について」、同金希泰研究生「止疑書」に見られる理毒性について、佐野靖夫立正大学仏教学部特任准教授「漢訳経典における多変量構造解析の試み」―羅什訳経典を中心として、韓国仏教部門で、福士慈稔身延山大学仏教学部教授「日本法相宗元曉引用章疏にみられる若干の問題点」。(写真6)

日本仏教で、松村壽巖立正大学仏教学部教授「日蓮宗と日蓮正宗」、寺尾英智身延山大学仏教学部教授「中世日蓮宗における葬送について」、三輪是法身延山大学仏教学部准教授「近代日本における日蓮仏教の受容」、仏教史部門で、高橋堯英立正大学仏教学部教授「サカクシャン社会の繁栄について」、安中尚史立正大学仏教学部教授「近代における日本仏教の海外布教」、仲澤浩祐立正大学仏教学部教授「西インドの碑文にみる仏教」、

二〇〇八年度韓国仏教集結大会に参加して（長澤）



写真6 発表する福士教授 寺尾教授撮影

二〇〇八年度韓国仏教学結集大会に参加して（長澤）

等であった。

### 歓迎パーティー

五時から歓迎レセプションがアンバサダーホテル十九階のホールで開催されるとのアナウンスがあったが、section 8 の部門の司会進行の先生は、時間を気にせずに発表会を進める。五時直前に本日の発表が終わり、急ぎホテルに戻った。

李平来会長の開会挨拶を始め、関係者の挨拶が長く一時間半もかかってしまった。今回の出席者は韓国、海外を含め一五〇人であるとのことであったが、懇親会出席者の数が一五〇名で会議出席者はもっと多かったように思えた。（写真7）

そのため肝心の食事時間が短くなってしまった。buffet形式でテーブルに並んでいる食べ物を好きなだけ皿にとり自分の席で食べるのであるが、食事時間が足りなかった。



写真7 日本からの出席者達

珍しかったのは般若心経と四句誓願を唱和したことであった。食事は十九時で終わり、解散後は皆が仲澤先生の部屋に集まりスコッチウイスキーを戴いた。口当たりの良い芳醇な香りを楽しんだ。

## 五月十八日 大会二日目

朝から雨、今日の午前中で大会は終わりだ。今朝の発表は、竹村牧男東洋大学教授「日本仏教とエコ・フィロソフィー」、田宮仁淑徳大学教授「The present condition of Buddhist terminal in Asia」、小池清廉京都市障害児福祉協会理事長「仏教思想は死ぬ権利、自殺、安楽死を認めない」などで、ターミナルケア、ビハラの問題など、現場からの発表は関心が持てたが、当事者自身も最後まで勉強をしていないと、ケアは成り立たないと発表の中で強調されていた。

しかるに一般人で末期を迎えた患者は、自分の世界に閉じこもってしまい周囲に関心も持たず、意志の交流も

極めて難しいと言われると、最終期のケアはどのようにして成り立っているのだろうか。

仏教芸術部門でビハラ問題やターミナルケアが発表されるとは、変な気がする。むしろこれが本題ではないだろうか。

午前で大会も終わり部屋を出たところで寺尾教授から、昼食の用意があるから食べに行こうと誘われる。午前で大会は終わるのに昼食が出るとはサービスの良いことである。巻き寿司のような、量が多く不思議な弁当であった。

午後は博物館へ

午後は国立中央博物館を見学することになった。雨が強くなったのでタクシーに分乗して出かけた。気温も下がって寒い豪雨の中を入り口まで歩くが、石貼の道は川のように水が流れてくる。丁度日曜日で平常陳列のみを観るのは入館料無料とのこと、日本では国立のつく博物

二〇〇八年度韓国仏教学結集大会に参加して（長澤）

館、美術館でこのようなサービスは無いし、また ICOM (International Council of Museums) のメンバーカードが使用できるなど細やかな配慮が感じられる。

博物館の建物は（写真8）以前の建物に比べると格段に大きくなり、花崗岩張りの壮大な建物である。展示数も増えたが、見て歩くのが大変だ。考古から現代までが、区分けして陳列してある。硬く長い廊下、展示室を歩くので、足裏が痛くなる。

自分が好きなのは三階奥の仏像の部屋である。中でも鉄仏（統一新羅）が良い。（写真9）（写真10）大きさもさることながら、張りのある切れ長の目、堂々とした体躯、鑄物の技術もすぐれ、現在は錆色を呈しているが、金色の残っている箇所もみえ、往時は金箔が施されていたのであろう。印も触地印が多く、石造の如来立像では、智拳印を結ぶ像もあり、日本とは異なる像が多く興味がある。

国宝第八十三号の金銅弥勒菩薩半跏像は、特別室内に



写真8 国立中央博物館



写真9 鉄製 如来形坐像

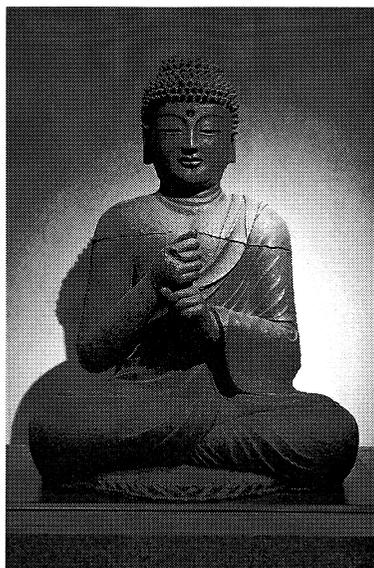


写真10 智拳印を結ぶ如来形坐像

置かれガラスケースに納めてある。広隆寺の弥勒半跏思惟像と比較される像である。残念なことに暗過ぎて細部がよく見えない。以前のほうが明るい照明の下で、間近で見られてよかった。繊維製品や絵画であれば照明を落とすのも止むを得ないが、金属ではその必要は無いが、国宝という存在が慎重にさせているようだ。

### 最後の晚餐

夕食は福士教授を先導に、韓国の伝統料理を食べに仁寺洞に出た。激しい降りて、水たまりができている曲がりくねった路地を入った奥に店はあった。予約してある部屋は細長い造りで、皆が座ると一杯になった。飲むと百年は長生きできるという百年酒がまるやかで美味しかったが、さて何年長生きできるやら。

途中から、福士教授の友人で、韓国金剛大学校教授金天鶴教授が参加された。教授の話の中で嬉しかったことは、身延山大学蔵、坂本文庫の資料を使って東京大学か

ら博士号を授与された由、原本は平安時代の華嚴経に關したもので、江戸時代の写本であるが、龍谷大学に所蔵されている資料との比較研究で、五〇〇カ所の相違点を摘出し考証した研究を纏めたものだそうだ。資料の選択、着眼点で絶賛されたそうである。お話を伺い本学にそのような資料が所蔵されているとは、図書館の一員としても嬉しい限りであった。

また韓国の大学の研究制度には、学生の指導をしないで、研究に専念できる制度があると伺うと、なんとも羨ましい話である。

二次会はマッコリを飲める店であった。地元の人が多く、焼きサバをつまみながら飲むスタイルも面白かった。明日も今日と同じように終日強い雨との予報に、予定の見学が無理な場合に備え代替のプランを皆で考えた。

五月十九日

予報が外れて雨は止んでいる。昨夜、皆で頭をしぼっ

た見学案も不要となり、予定通り、見学が実行できそうである。バスが迎えにくる十二時まで時間を如何につぶすかになり、福士教授の案内で本屋に行くことになった。本屋は景福宮のすぐ傍のビルの地下にある。広いフロアーに専門別に配置されているが、自分が欲しい美術、建築関係の図書は少なく？、それにはハングルで書かれているタイトルが読めないこともある。だが慶州の芬皇寺発掘調査記録の本を見つけることができた。

#### 水原見学へ

十二時にバスが迎えに来て、荷物を積み込み出発した。仲澤、松村、三友教授と奥さまは早朝に帰国されたので、一行は八名に減った。最初の見学予定、宗廟見学は時間の関係で中止して、水原 Wusun の水原城（華城）に向かった。

ソウルから南へ向かい四十分ほどで到着、途中の道路も以前来た時に比べ、格段に良くなっているように思え

る。水原華城は京畿道水原市に築造された朝鮮時代（一三九二—一九一〇）後期の創建で、現在の城は朝鮮第二代正祖一八年の一七九四年に着工し、一七九六年に完工した。父・莊獻世子に対する孝心と、新都市を建設しようとして築城されたものである。

経年の傷みに加え、朝鮮戦争時に大きな損害を被ったが、一九九七年世界遺産に認定され、復元修復も進んだそうである。

進行方向正面に見えてきた曲面の城壁に穿たれた東北弩門と、東北空心地の間に開いた門から城内に入り、南に向かい、街中を通過して右に折れ、長安門（北門）に向かう。走りながら城壁が見えるが、周囲五・三キロの複雑な曲線の城壁に囲まれた街で、城壁内部には、現在住んでいる人達の建物と生活がある。城壁の外には新市街の高層ビルが林立している環境で、史跡として特別に保護されているのではなく、新旧の生活の中に自然に城跡が混在している様子が明白で、周囲の城壁の石垣も修

二〇〇八年度韓国仏教学結集大会に参加して（長澤）

理の手が多く加えられているのがよく分かる。

### 城壁散策

バスが長安門（北門）に到着した。門は台形の石積みの上に木造の楼閣がのっている、韓国でよく見られる形式の門で、左右に階段があり、ここから城壁に上ることが出来る。

門は石積み部分は良いが、上部の木造部分は新しく見える。理由は一九五〇年から始まった朝鮮戦争の際に焼失してしまい、世界遺産指定後に、上部の木造部分が復元されたからである。南門である八達門と同じ規模形式である。虹門の上から門外を見ると、門の外側に煉瓦積み半月形の甕城が門を囲んでいる、防御を強固にした特別な造りの門である。（写真11）

二年前の海印寺での学会の時にも、戦争の被害の話を聞いた。日本も半世紀前には戦災による被害が至る所で見られたが、いつのまにか復興にともない忘れてい



写真11 長安門を横から見る、半月形の甕城が門を囲んでいる

とを思い出した。

城壁の上を着竜門まで徒歩で見学する。外側は石積みで垂直に近い急角度、内部は緩い傾斜の斜面になっていて、草が生い茂り緑が奇麗である。途中に種々の攻撃用防御用の装置があり、往時の築城技術の高さに感心させられた。石積みの技術も高く、日本の城壁は自然石を組み合わせ積み上げている野面積みが多く見られるが、ここのは、切り石の面を奇麗に削り、角面を大きくとっている（日本流に言えば打込ハギと切込ハギ）ので曲面の構成が強く感じられ、穏やかな表情を見せている。

城壁の上には、展望台など平和目的の建物も見られ、戦闘本意の城ではなく、平和利用も考慮した多目的の城と思えた。城内に水原川の流れを引き込み、流れに沿って庭園が整備されていて、流れを跨ぐ華虹門と北水門の造りも美しく、一層その感を強くさせる。それを過ぎると東北角楼（訪花随柳亭）がある。（写真12）お坊さんが建てたと説明されたが、格別異なっていない。明治

二〇〇八年度韓国仏教学結集大会に参加して（長澤）



写真12 訪花随柳亭、遠くに長安門が見える 寺尾教授撮影

四十年代に調査に当たった建築史家関野貞は、著書『朝鮮の建築と芸術』の中で「朝鮮における最も発達した形式を有する城郭である」、「また水門上に架せる華虹門およびその傍らにある訪花随柳亭は形態奇巧を極め、四圍の景勝と相俟ってもっとも豊かなる情緒を露わしている」と述べている。往時は美しかったのであろう。

城壁を歩いているとお爺さんから日本語で話しかけられた。華城のボランテアをされているそうで、お年からみれば日本語を知っている世代であるが、日本語が分かるという人は稀である。しばらく歩いて練武台観光案内所に着く。韓国伝統の国弓の弓を射ることが出来る練弓場があるが、誰も挑戦しなかった。

### カルビ発祥の地

見学を終え遅い昼食となった。水原は「焼き肉」カルビ発祥の地だそうで、ガイドさんの案内で一件の店に入る。出てきた肉の大きくて厚いこと、それを塩で食する

のがお勧めとか、焼け具合を見計らい、鉄で適当な大きさに切ってサービスしてくれる。岩塩を付けて食べると、肉のうま味が口の中に広がりいくらでも食べられる。肉と焼酎が良く合う。焼酎にも甘口、辛口があるがどちらとでも美味しい。

### 民族村へ

食後に韓国民族村に行った。以前来たときに比べ内部の整備も進み、見所が増えたようだ。加えて各地の民族芸能を実演しているのも楽しい。丁度綱渡りの実演が始まったところで、白い民族衣装に赤いベストを着たおじさんが、マイクで説明しながら綱を渡ってゆく。（写真13）数回往復し、その都度異なった芸を披露してくれる。何気ない芸であるが、精神を統一しないとうまく出来ないと話す声が、だんだん上ずってきて、呼吸からも激しい芸なのだ実感した。妙技を堪能できたが、ガイドさんの話では、韓国でも後継者難が深刻だそうだ。



写真13 綱渡りの妙技

次いで騎馬芸を見る。若い少年が見事に馬を操り、曲芸乗馬を披露してくれる。(写真14) 韓国の人達の見学も多く、自然環境を生かした生活ぶりが見られ、作り物でない生活を感じさせてくれる、考えられた教育の場に成長したように感じた。結婚式の模擬実演もあったが、時間の都合で見ることができなかった。

官衙が面白い。朝鮮時代の地方行政機関である。移築された建造物を使って、当時の生活様式が再現されているのを見ると、村役場に警察までを含めた組織で合理的にみえる。日本では奈良時代の遺構が発掘されるのみであるが、日本の官衙もこのようであったのかもしれない。まだ見たい所はあるが、帰国の時間も迫ってきた。

空港へ

十六時四十分に集合場所に戻り金浦空港へ向かった。夕刻のラッシュアワーに巻き込まれ、空港についたのは十八時二十分であったが、仁川空港に比べ小さいので手

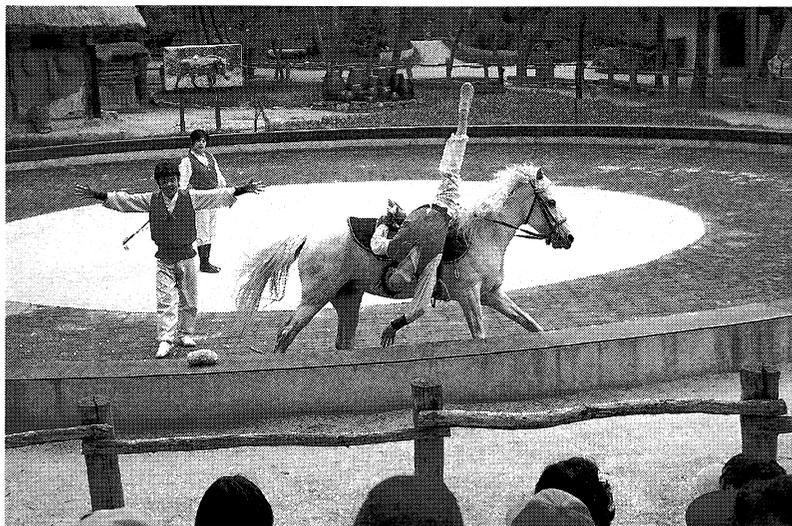


写真14 騎馬の曲乗り 寺尾教授撮影

続きも短時間で終わり、搭乗までの待ち時間が最後のビールパーティーとなった。飛行機は往復とも満席で、各自の席でワインを飲みながら無事二十二時十五分に羽田空港に着陸し、高橋教授の解散の挨拶で全行程を終え、帰途についた。

今回の印象として、韓国の仏教徒の真剣な研究態度と外国語力（英語）の高いことに強い印象をもった。金天鶴教授は、韓国で仏教を研究するには、日本の仏教界の動向を知らねばならないので、日本語の習得が欠かせないと仰ったが、反対に日本語は分らないが英語なら分かるという若い韓国人学生が多かったことは、これからの韓国の日本に対する姿勢とも重なっているように感じられた。